

こんにちは!

村立東海病院



音のチカウで異常を発見!「超音波検査」

今回は、超音波検査の仕組みや、村立東海病院で受診できる超音波検査の種類についてご紹介します。

身体的負担が少なく、異常を早期に発見できる「超音波検査」

【超音波とは?】

言葉のとおり“音”を利用した検査法です。音とは物質の中を伝わる振動をいい、1秒当たり1回の振動を1ヘルツ(Hz)という周波数で表します。人間の耳に聞こえる音の範囲の周波数は、おおむね20ヘルツ~20キロヘルツ(1キロヘルツ=1,000ヘルツ)といわれています。周波数が高く、人間の耳には聞こえない音を「超音波」と呼びます。

【超音波検査とは?】

胸部や腹部など体の表面にゼリーを塗り、プロ-

ブ(超音波を発信する装置)を押し当てて、体外から臓器や血管などに超音波を当て、はね返ってくる超音波を電気信号に変換し、体内の状態を映像化して疾患の有無を調べる検査です。検査時間は10分~30分程度で、特に痛みを伴うこともないため、身体的負担の少ない検査です。心臓や腹部内臓器(肝臓、胆のう、^{すいぞう}膵臓、^{ひぞう}脾臓、腎臓、腹部大動脈)、血管などの異常(腫瘍、のう胞、結石、血栓など)を発見することができます。



当院で受診できる超音波検査をご紹介します

●心臓超音波検査

心臓の収縮および拡張の程度や、弁の閉鎖不全や狭窄の有無、心臓の肥大や拡大の有無を観察します。検査で分かる疾患は、弁膜症や虚血性心疾患(狭心症・心筋梗塞)、心筋症、心筋炎、心膜炎、先天性心疾患などさまざまです。胸部レントゲン撮影や心電図など複数の検査結果と組み合わせて診断されます。

※当院では上記のほか、乳腺・^{けい}頸動脈・甲状腺・下肢静脈などの超音波検査を行っています。

●腹部超音波検査

腹部内臓器(肝臓、胆管・胆のう、膵臓、脾臓、腎臓などの固形臓器や大動脈、下大静脈)や骨盤内臓器(ぼうこう、前立腺、子宮、卵管、卵巣)のほか、条件によっては大腸などを検査対象としています。検査で分かる疾患は、各臓器の腫瘍性の病気、脂肪肝、胆のうポリープ、胆石、腎のう胞、腎結石、尿管・ぼうこう結石、前立腺肥大、子宮筋腫、卵巣のう腫などです。その日のおなかの調子(腸の中のガスなど)で、良く見える場合と、あまり見えない場合があります。

気になることがある場合は、お気軽にお声掛けください!

超音波検査では、プローブを体に押し当てた時に痛みを感じることがあります。痛みが我慢できない、長時間横向きの姿勢が取りにくい、気分が悪い、トイレに行きたい、寒いなどの場合は、検査担当者にお伝えください。また、超音波検査で気になることがありましたら、検査担当者へお声掛けください。



村立東海病院 臨床検査室 塙正成

【問い合わせ】村立東海病院(☎282-2188)、地域福祉課地域福祉・地域医療推進担当(☎282-1711 内線1139)